

(74)

氏名(生年月日)	井 上 雄 志
本 籍	
学 位 の 種 類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1528号
学位授与の日付	平成7年2月17日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	カラードプラ超音波内視鏡検査による直腸癌腫瘍内血流に関する研究 —腫瘍内血流と血行性転移との相関について—
論文審査委員	(主査) 教授 高崎 健 (副査) 教授 浜野 恭一, 宮崎 俊一

論 文 内 容 の 要 旨

〔目的〕

今回カラードプラ超音波内視鏡(CDEUS)を用いて直腸癌の腫瘍内血流観察を試み、腫瘍内血流と血行性転移との関連について検討し、生体内の腫瘍内血流から血行性転移の危険度の予知の可能性についての研究を行った。

〔対象および方法〕

1992年6月～1994年2月までに教室で経験した壁深達度mp以深の進行直腸癌切除例のうち、腫瘍全体の血流観察が可能と思われた30例を対象とした。これら30例を血行性転移陽性群と陰性群に分け、腫瘍内血流観察(血流数、血流密度および最高血流速度)を観察した。また切除標本の静脈侵襲がv2, v3の症例14例を高度脈侵襲症例とし、血行性転移の有無で腫瘍内血流の比較を行った。

〔結果〕

転移陽性群の観察血流数、血流密度および最高血流速度は平均5.1本、0.14本/cm²、26.9cm/sで、転移陰性群はそれぞれ平均3.1本、0.07本/cm²、15.5cm/sであり、転移陽性群は、転移陰性群に比較し有意に観察血流数は多く、血流密度は高く、最高血流速度は速かった。また静脈侵襲が高度になると観察血流数は多く、最高血流速度は速い傾向を認めた。v2, v3であった高度脈侵襲症例中、転移陰性例は、転移陽性例に比較し有意に観察血流数は少なく、最高血流速度は遅かった。

〔考察ならびに結論〕

術前の癌腫の観察から血行性転移の危険度を予知す

る情報の一つとして、カラードプラ超音波内視鏡検査を用い、生体内の癌腫の血流を検索することから血行性転移の危険度を予知する可能性が示唆された。また高度静脈侵襲症例中、転移陰性例は、転移陽性例に比較し有意に観察血流数は少なく、最高血流速度は遅かった。カラードプラ超音波内視鏡検査による血流観察は、現在血行性転移の指標の一つと考えられている病理組織の静脈侵襲以上に血行性転移予知に有用と思われる。術前CDEUSにて血行性転移危険群とされた症例は、入念な術前の精査および術中の肝触診、超音波検査などの検索を施行する必要があると考えられた。

論文審査の要旨

直腸癌の腫瘍内血流をカラードプラー超音波内視鏡を用いて計測し、血流と血行性転移の危険度の指標になるか否かについての検討が行われた。

外科切除予定の30例について術前に検査を行い、腫瘍内の観察できた血流本数、密度、流速を計測し、切除標本の組織学的所見特に静脈侵襲と、転移保有率との関係について検討された。転移陽性例では血流本数、血流速度ともに陰性例より有意に多いことが結論された。現在転移の可能性を計る因子としては病型、組織型、その他病理学的所見により検討されてきたが、血流という生理学的視点からの検討はあまり行われておらず新しい試みとして評価される。

主論文公表誌

カラードプラー超音波内視鏡検査による直腸癌腫瘍内血流に関する研究—腫瘍内血流と血行性転移との相関について—

Gastroenterological Endoscopy Vol 36 No 11
2136-2145頁(平成6年11月20日発行)井上雄志,
村田洋子, 鈴木 衛, 渡辺和義, 吉田勝俊, 長
廻 紘, 鈴木 茂

副論文公表誌

- 1) 同時性多発大腸癌(5病巣)の1切除例. 日本大腸肛門病会誌 42(2):174-177 (1994) 井上雄志, 草野 佐, 小沢俊総, 矢川彰治, 植竹正紀, 野方 尚, 小俣好作
- 2) 進行癌の大腸内視鏡. 消化内視鏡 6(7): 853-858(1994)井上雄志, 長廻 紘, 鈴木 衛, 村田洋子, 渡辺和義, 吉田勝俊, 亀山健三郎, 高柳泰宏, 杉山茂樹, 鈴木 茂, 羽生富士夫
- 3) 直腸癌の進展度診断に対する超音波内視鏡検査の有用性と問題点. Gastroenterol Endosc 36(9):1711-1718 (1994) 井上雄志, 村田洋子, 林 朋之, 鈴木 衛, 渡辺和義, 吉田勝俊, 亀山健三郎, 高柳泰宏, 長廻 紘, 鈴木 茂
- 4) Stapling devicesを用いた回腸肛門吻合術の工夫. 手術 47(13):2253-2256 (1993) 渡辺和義, 五十嵐達紀, 鈴木 衛, 吉田勝俊, 井上雄志, 亀山健三郎, 羽生富士夫
- 5) 腹部腫瘍の画像診断—最近の進歩—大腸. 臨画像 9(4):52-62 (1993) 渡辺和義, 山田明義, 五十嵐達紀, 吉田勝俊, 井上雄志, 亀山健三郎
- 6) びまん浸潤型大腸癌の臨床病理学的検討. 日本大腸肛門病会誌 47(3):234-239 (1994) 吉田勝俊, 鈴木 衛, 渡辺和義, 井上雄志, 亀山健三郎, 高柳泰宏, 羽生富士夫